

## 令和4年度

### <研究テーマ(令和3年度~)>

#### ICTを効果的に活用した授業改善

2019年12月に閣議決定された「GIGA スクール構想」により児童生徒に1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークの整備が推進され、浜松市においても昨年度(2021年度)末までにすべて完了した。

2021年「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」では、2020年代を通じて実現を目指す学校教育の姿として「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実と、そこから「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが重要とされている。その際にICTの活用は大きな支えになるはずである。同答申には、社会全体のデジタルトランスフォーメーションの加速の必要性についても言及されており、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTはもはや必要不可欠なものであることを前提とした学校教育の在り方を検討していくことが必要であることが示されている。

そこで、本研究部では「ICTを効果的に活用した授業改善」を研究テーマとして「令和の日本型学校教育」の構築のための授業研究を行っていきたい。そのために、日本のこれまでの授業の良さを大切にしつつも、これからの学びのために導入されたChromebookの活用を前提とした授業改善を進めていく。浜松市においては一昨年度から「タブレット型端末活用協力校」による事例提供により、多くの活用事例が集まっている。そこには端末の活用なしでは実現できなかった学びの事例もたくさんある。これまで積み上げられた実践をもとに授業構想を行うことで、さらに効果的な活用を目指していくことができるだろう。より良い活用・効果的な活用は失敗を繰り返す中で生まれる。情報教育研究部では結果よりも効果的な活用のための構想にこそ価値があると捉え、様々な活用への挑戦が後押しできるような授業研究を行っていきたい。